

第1回 能登半島における広域道路ネットワーク検討会

議事要旨

日 時 : 令和6年12月23日(月) 15:00~17:00
場 所 : 金沢河川国道事務所 2階 会議室
出席者 : 高山会長、川村委員、中山委員、藤生委員、竹林委員、五十川委員、
杉本委員、桜井委員、金谷委員
事務局(北陸地方整備局、石川県、富山県)

議事概要(各委員からの主な意見)

<道路のサービスレベルの分析に関する意見>

- ・広域道路ネットワークを検討する前提として、今回の地震を対象に、緊急輸送道路に指定されている各道路・区間におけるトンネル・橋梁・盛土・切土といった道路構造物の被災割合等から、現状の道路ネットワークの信頼性を検証してはどうか。
- ・道路には電力や水道等の生活インフラを収容している区間が多く、信頼性や重要度の検証には生活インフラの観点も考慮が必要ではないか。信頼性を示すことで生活インフラを誘導するといった事が考えられるほか、オフグリッドとの役割分担といったことも考えられるのではないか。
- ・道路のサービスレベルの分析は、拠点間の連絡速度以外に、災害発生後における事業車両や特殊車両の通行可否といった道路の機能面から見た分析も必要ではないか。
- ・道路のサービスレベルの分析におけるノード(拠点)やリンクは、通勤・通学、通院(救急搬送)、買い物、観光等、交通目的に応じて設定すべきではないか。これらの目的別にサービスレベルを分析し、それを重ねることで、広域道路ネットワークの方向性が見えてくるのではないか。
- ・輪島市は、地域的に輪島市中心部、門前地区、町野地区が拠点となっているので、町野地区も拠点に加えるべきではないか。
- ・道路の耐震化の有無も現在の道路ネットワークを評価する指標として考慮すべきではないか。

<能登半島の現状把握に関する意見>

- ・人口減少は総数で分析されているが、生産年齢人口など年齢構成的に分析することで、今後の展望等が見えてくるのではないか。
- ・資料に医療機関の30分圏域空白地帯が紹介されているが、今回の地震発生後における30分到達圏域は橋梁の段差等によってもっと小さいはずなので、震災前の救急搬送と震災後の道路の復旧状況に応じた救急搬送の変化等を把握してはどうか。
- ・観光について、震災後の観光周遊パターンを見ると復旧状況に応じて北上している傾向も見られるので、震災前の周遊パターンも見ながら変化を分析してはどうか。
- ・現状把握は道路ネットワークのみに着目して整理されているが、空港や港との連携といった点も重要であり、空港や港からの到達点（イグレス、アクセス）についても考慮すべきではないか。

<広域道路ネットワークの形成に関する意見>

- ・今回の地震の大きな課題は、幹線道路の被災により人や物資が能登に入れなかったこと。能登を縦貫する規格の高い道路を「くしの歯」のくしとして、そこから外浦や内浦へ啓開する形が必要ではないか。また4車線化された区間は早期に通行可能な状態になったことを踏まえ、規格の高い道路は4車線が望ましい。
- ・半島沿岸部は観光周遊道路として、規格の高い道路に準じる道路として整備が必要ではないか。
- ・広域道路ネットワーク形成のポイントに関して、圏域間連携の強化として金沢都市圏との連携が挙げられているが、東京方面等からの物流等もあるので、富山との連携も記載してはどうか。

<今後の検討の進め方に関する意見>

- ・地元や自治体からの意見や計画を収集して、それを踏まえた議論が必要ではないか。
- ・空港や港湾との連携を踏まえ、地元や地域とどんなネットワークが必要なのか、様々な意見を聞いて進めていくことが重要。